

(五) 十八歳未満ノ者ヲ火夫若ハ石炭夫トシテ使用スルコトヲ禁止スルコト  
ニ反對スル論者ノ理由トスル要點ハ左ノ如シ

一、日本人ハ早熟ナリ、故ニ歐米人ニ在リテハ十八歳ハ未ダ發育不充分ナル  
ベシト雖モ我邦ニ於テハ一般ニ十六歳ニ達スレバ充分ノ發育ヲ遂ゲタルモ  
ノト云ヒ得ベシト。

然レドモ醫學上ハ兎ニ角、實際上日本人ガ果シテ歐米人ニ比シ早熟ナリヤ  
否ヤハ爾ク簡單ニ斷言スルヲ得ズ假令多少早熟ト看做スベキ點アリトスル  
モ論者ノ謂フガ如キ程度ニ非ザルベキハ明カナリ。尙彼ノ印度人ノ如キ早  
熟ノ程度ヲ以テシテ昨年ゼノア會議ニ於テ之ガ爲メニ諸種ノ除外例ヲ求ム  
ルニ如何ニ困難ヲ爲シタルカヲ見バ思半ニ過グルモノアラム

二、十八歳ノ幼年ト十六歳及ビ十七歳ノ幼年トノ間ニハ身心ノ發育ノ程度ニ  
大差ナシ故ニ十八歳ヲ限度ト爲スノ理由ニ乏シ、サレバ寧ロ本案ノ十八歳  
ヲ十六歳ト改メ本人ニ就職ノ便宜ヲ得セシムルヲ可トスト。

然レドモ十六歳ノ幼年ト十八歳ノ幼年トノ間ニ身心ノ發育程度ニ重大ナル  
差違アルハ前掲第一表ヲ見バ明瞭ナルベシ

三、人ノ發育程度ハ年齢ニ依ルニ非ズシテ人々ノ性質境遇等ニ依リ異ナルモ  
ノナレバ強チ十八歳ト限ル必要ナク唯各個人ニツキ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ  
一定標準以上ノ發育ヲ遂ゲタル者ニハ火夫乃至石炭夫トシテ勞働ヲ爲サシ  
ムルモ差支ナカルベシト。論者ノ說ニハ一理アリト雖モ法規ハ常ニ中庸ヲ  
標準トシ大多數ノ状態ヲ基本トシテ制定スベキモノナリ。本件ニ就テモ若  
シ人道上、保健上兒童ノ就職年齢ニ制限ヲ設クベキ必要ヲ認メナバ其ノ標  
準ハ一般多數ノ平均状態ニ求メザルベカラズ而シテ人體發育ノ狀況ハ各個  
人ニ依リ多少異ルベシト雖モ普通十八歳未満ノ者ハ發育不充分ニシテ夫レ  
以上ハ大體成熟期ニ入ルモノト云ヒ得ベキヲ以テ十八歳說ニハ相當ノ根據  
アルヲ知ルベシ。

四、幼年ガ義務教育乃至補習教育ヲ受ケタル後モ十八歳ニ達スル迄ハ火夫若